

■大学院受験者インタビュー3

学習院大学／人文科学研究科／日本語日本文学専攻 進学 研究テーマ「自動詞と他動詞」

2010年10月インターカ尔特入学（レベル6）⇒2012年3月卒業（レベル10）

天津出身。秋に来日し、その年のうちにすでに東京外国語大学を受験したが、不合格。この時はまだ日本の大学院や受験の方法などよくわかっていなかったので準備が足りず、後から考えると不合格は当然だったと思う。ただ、受験の体験をしたことで得ることは多かった。秋来日の学生がすぐに合格するのは難しいが、経験のために一度受験しておくことは勧められる。2年目は桜美林大学、国学院大学、学習院大学に合格し、学習院大学に進学した。将来は博士課程にも進み、帰国して大学で日本語を教えたい。

● 日本の大学院進学について、来てからわかったこと

中国の大学院受験では学力テストのようなものが主で、日本のように自分の研究テーマを問われることはないし、専門科目の試験も日本語能力試験のようなものを予想して受験したら実際は全く違った。さらに、中国の大学の日本語科では日本語や日本文学についての勉強が日本国内の大学ほど専門的ではなく、日本語教育学についても全く勉強していなかった。1年目に受験に失敗してそれがわかり、2年目は専門書を読んだり、各大学の過去の試験問題を検討したりした。また、大学によって試験の内容ややり方もかなり違うので、資料を集めて自分に有利な大学院を受験したほうがいい。そのためにはオープンキャンパスや説明会への参加も有効。

● 受験する大学や指導教授の探し方

最初はどんな大学があるのか全くわからなかったが、日本で大学を卒業した先輩や友人、進学担当の先生などにどんな大学があるか聞いた。かなりたくさん大学のついて受験情報を集め、結局2年目は6校受験した。リストアップした中では易しい方だった桜美林大学に12月に合格したことで余裕ができ、その後1月、2月に他の大学院を受験した時にあまり緊張しなかった。

● 教授との面談・説明会

事前に教授と面談はしなかった。学習院大を卒業した先輩には連絡を取る必要はないと言われた。東外大と国学院は説明会に行った。説明会に行く場合には、事前によく調べて、目的を持って行った方がいい。

● 研究計画書

ネット上の日本語教育関係のサイトでテーマを探した。国学院のオープンキャンパスで教授と話し、研究計画書も読んでもらい、アドバイスを受けた。関係のある中国語論文、日本の本を参考に書いた。

● 筆記試験の準備

大学によって筆記試験の内容は違うので、過去問題を研究することが大事。『日本語教授法』『日本語教育用語集』『日本語教育入門』などの本で勉強した。日本人のための日本語教育検定試験の参考書は、種類が多く基本がまとめてあるので利用できる。事前に大学の卒業論文の提示を求められた大学があり、大学の時に書いたものをもう一度書き直して提出した。この時は日本に来てから読んだ本も参考にしようまくまとめることができ、面接試験の時に教授にほめられた。

● 口頭試験・面談

面接試験の形式は学校によって全く違う。志望理由や研究テーマ、学費についてなどの一般的な質問については、インターカ尔特で先生たちと練習した内容で充分だった。1回ではなく、何度もいろいろな先生と練習したことで自信ができ、話すことにも慣れた。専門的な質問を受ける口頭試験の場合には、かなり事前の準備が必要。指導希望教授の論文は全部読めなくても、タイトルだけでも知っている方がいい。

● 後輩にアドバイス

秋来日なら春の試験、春来日なら秋の試験をまず受けてみたほうがいい。その時合格するのは難しいが、日本の大学院受験がどんなのか体験しておくに役に立つ。中国との違いがはっきりとわかる。受験料は高いので、何校も受験するのは費用がかかるが、できたらレベルを変えて何校も受験してみたほうがいい。アルバイトはしない方が勉強に集中できるが、どうしても必要なら、アルバイトをする時期と受験勉強の時期を分けて、受験勉強の時期にはそれだけに集中した方がいい。

■采访大学院入学者 3

学习院大学/人文科学研究科/日本語日本文学专攻 考入

研究主题《自动词和他动词》

2010年10月进入草苑日本語学校（水准6），2012年3月毕业（水准10）

天津出身。秋季来日后，当年考过东京外国语大学，没合格。后来想，当时对日本的大学院以及考试不太了解，准备不足，不合格是理所当然的。但，通过考试也懂得了不少。秋季入学的学生马上能考入大学院是有难度，但是，为了积累经验，建议参加考试。第二年度，在樱美林、国学院、学习院大学的考试中合格，最终选择了学习院大学。修完博士课程，将来回国当大学日语老师。

●来日本之后了解的关于大学院的升学

中国的大学院考试是以学历考试为主，没有像日本这样的对自己研究内容的提问，专业科目的考试预想着日本語能力考试一样的内容来准备是完全错误的。在中国的大学日语系里学的日语以及日本文学不像日本国内的大学这么专业，而且根本没有学过日本語教育学的相关内容。第一次的考试失利中懂得了这一点，开始读专业书、研究了各大学的过去考题。各大学的考试内容和考试方式有所不同，应该多收集资料，选择参加对自己比较有利的大学院的考试为好。为此，应该积极参加各个学校的“开放校园”活动和说明会。

●查找要报考的大学、指导教授的方法

最初完全不知有怎样的大学，渐渐地通过师长、友人、升学指导老师了解到了大学的情况。收集了相当数量的大学资料，最终参加考试的是6所学校。12月在自己制定的升学学校一览表中相对容易考入的樱美林大学的考试中合格，心里有了一些安心，接下来的1月、2月的考试中没有那么紧张。

●与教授面谈·说明会

没有跟老师事前面谈。听学习院大学毕业生讲，没有必要提前联系导师。去过东外大和国学院的说明会。去说明会时，有必要提前调查好，抱着目的去参加为好。

●研究计划书

在日本語教育相关网页上寻找了研究主题。参加国学院的“开放校园”活动时，给导师看了一下研究计划书，得到了一些建议。主要是参考了相关的中文版论文和日本的相关书籍。

●笔试的准备

笔试内容因大学而异，研究过去考题非常关键。主要学习了《日本語教授法》、《日本語教育用语集》、《日本語教育入门》。为了日本人的“日本語教育检定考试”参考书，种类多、基础部分的总结比较好，可以利用。有的大学要求提交大学的毕业论文，提交之前对大学论文进行了修改。这次的修改是来到日本后进行的，而且参考了在日本读过的书籍，总结的比较好，面试时，受到了导师的赞扬。

●口试·面试

面试的形式因学校而截然不同。关于志望理由、研究主题、学费相关的一般的提问，通过草苑日本語学校的面试练习已经足够。通过不同老师的多次的练习，得到了自信，习惯了表达。要对付专业方面的口头考试，事前要多做准备。指导教授的论文不能说是全部读完，最起码要知道论文的题目。

●给后辈的建议

秋季入学试一下春季考试，春季入学试一下秋季考试为好。合格虽然比较难，但可以了解日本的大学院考试究竟是怎样的。也可以明白与中国的不同。考试费很贵，选择学校时应该考虑好学校的水准差，避免盲目的考试。不打工当然可以把全部精力投入到升学准备中，一定需要打工时，建议把握好打工的时期和考试准备时期，考试准备期间应该只集中于考试准备。